

平成十四年度入試報告  
更なる飛躍を

進路指導部

平成十四年度入試では、東大三(新卒二四名)が合格しました。東大合格者は三年連続で三〇の大台に乗せ、全国公立高中第二位であります。京都大に八名(新卒三名)、一橋大八名(新卒五名)、東工大一三名(新卒九名)の合格を出したことは、本校生の難関大志向に一層の道筋をつけるものとして賞賛に値します。さらに筑波大医学専門学群の四名を含めた国立大医学部合格者数一七名という数字も昨年を上回る立派な実績であります。

私大の方では慶応大六六名(新卒四四名)、早稲田大九二名(新卒四三名)、上智大三〇名(新卒二〇名)、東京理科大八六名(新卒三〇名)の合格者を出し大健闘しました。特に慶応大の数字が光ります。国立大合格者の総数では二〇四名(新卒一二四名)にとどまりましたが、内容的に大変充実した数字であると言えます。私立大等を加えた合格者の総数は八七一名(新卒四一六名)で、五月一日現在、新卒生の進学者数は前年比四名増の一九六名となっております。

これまで指摘されてきた難関大志向の傾向は今年も顕著で東大・京都大・一橋大・東北・東工・筑波大の受験数が全体の七割近くを占めています。難関国立大を第一志望として他

は受験しないか、私立大併願をするが、早稲田・慶応・上智あたり以外では合格しても進学しない、という構図が徹底してきています。進学者数の増加が困難な状況になっていきます。

展望の見えにくい慢性不況の中、世は挙げて浪人回避へと動きつつある中で本校は多数浪人の傾向です。一年くらい浪人しても第一志望を貫徹した方が良くという判断が根拠になっていきます。したがって、本校生が希望する難関国立大や有力私大により多くの合格者を出すためには一層の実力の涵養が必要となります。

週五日制、五教科七科目問題、新教育課程実施、大学の独立行政法人への移行など入試環境も激動の時代を迎え、進路指導も正念場となります。心して当たらねばならないと決意を新たにしております。

過年度卒生の方は一七三名のうち、一四七名が進学しました。東大・京都大・東工大・一橋大・東北大・筑波大・早稲田大・慶応大および国立大医学部などへ多くの合格者が出ていて、雌伏一年の苦労が偲ばれますが、すべてが第一志望を貫徹出来たわけではありません。むしろ、第二の策として主要私大を併願し、合格できた所に入学するという現実的組み立てを実行している者が多くなっています。

本校生が志を高く保ち、果敢に難関大受験に挑戦し、合格していくのは大変喜ばしい限りですが、希望に見合う実力養成という厳しい試験に直面しているのは否めない事実であります。

平成14年度入試合格状況

国公立大学

私立大学

大学	合格者	新卒
北海道大	13	7
東北大	22	15
茨城大	7	4
筑波大	36	23
千葉大	6	5
お茶の水大	3	3
東京大	33	24
東京外語大	5	3
東工大	13	9
一橋大	8	5
横浜国大	1	1
名古屋大	2	
京都大	8	3
旭川医科大	1	
弘前大	2	
埼玉大	2	1
電気通信大	1	
東京医科歯科大	2	2
東京学芸大	1	
新潟大	3	2

大学	合格者	新卒
鹿児島大	1	
高知医大	1	1
信州大	4	1
大阪大	2	1
岡山大	1	
九州大	4	2
東京芸大	1	
愛媛大	2	
東京農工大	4	2
静岡大	3	2
国立大計	192	116
茨城県立医療	5	4
東京都立大	2	1
福島県立医大	1	1
名古屋市立大	1	1
公立大計	12	8
防衛大	2	1
防衛医科	2	1
大学校等計	4	2
国立短大計	2	1
私立短大計	2	1

大学	合格者	新卒
青山学院大	20	12
学習院大	13	5
慶応大	66	44
国際基督大	4	3
上智大	30	20
中央大	40	16
津田塾大	5	4
東京女子大	16	10
東京理科大	86	30
日本女子大	7	4
明治大	50	21
立教大	35	23
早稲田大	92	43
法政大	20	9
同志社大	7	1
立命館大	18	2
日本大	18	5
東京電機大	6	1
私立大計	661	289
合格者総計	871	416